

## 2025年度 東海大学付属甲府高等学校 学校評価(自己評価)

評価(4…十分達成している 3…概ね達成している 2…どちらかというとは達成していない 1…ほとんど達成していない)

A…概ね良好である(3.0以上) B…工夫・改善の余地がある(2.5～2.9) C…工夫・改善の必要がある(2.1～2.4) D…根本的に工夫・改善を図る必要がある(2.0以下)

領域	重点目標	自己評価結果(成果と課題)	評価	次年度への改善策
学校運営	「伸ばせ人間力!!」をスローガンに掲げ、人間力を高める指導を実践し、社会で活躍できる人材育成を目指す。	重点目標である「人間力の育成」に向けた取り組みは、一定の成果を上げている。安全・防災や教育環境に関する項目はいずれも比較的高い評価を得ており、学習環境が整っていることが伺える。また、ユネスコスクールへ正式加盟やJTＢとの企業連携プロジェクトは、社会とつながる実践的な学びとして評価できる。 一方で、教育方針や目標の理解、学校への誇りや愛着、地域・保護者との連携に関する項目では、やや低く、学校の理念や取り組みが十分に共有・浸透していない点が課題として挙げられる。	A (3.1)	次年度は、探究学習を教育活動の柱として位置づけ、企業連携プロジェクトを始動する。このプロジェクトを発展させることで、社会課題に向き合いながら「0から1を生み出す創造力」や主体性を育成していく。あわせて、ユネスコスクールとしての取り組みを生徒自身が理解できる機会を設ける。 また、生徒が学校行事や広報活動、学校改善に主体的に関わる場を設定し、「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識を高めることで、学校への誇りや愛校心の育成を図る。教員は率先して学校の理念や価値を体現し、生徒・保護者・地域と共有することで、学校への共感と信頼を一層深めていきたい。
学習指導	・基礎学力の定着と向上 ・ICT教材を効果的に使用し、生徒の学習習慣の確立に努める。	・本年度は、スタディサブリの活用促進を目的として、課題配信の難易度を調整するなどの工夫を行った。その結果、特に1学年において取組頻度が大幅に向上した。また、長期休暇中には各教科から継続的に課題が提示されるなど、学習習慣の定着に向けた前向きな取組が見られた。一方で、ICT教材を自主的な家庭学習に活用している生徒は依然として少なく、今後の課題である。 ・学習活動全般については、生徒および保護者から、これまで以上に質の高い授業への期待が寄せられていると受け止めている。こうした期待に応えるためにも、授業改善や研修等を通じた教員の指導力向上が必要である。	B (2.9)	・スタディサブリ、GELP、ロイロノート等のICT教材については、一定程度活用が進んでいる。今後は次の段階として、これらの活用が学習成果の向上につながるよう、指導方法や課題設定の工夫など、効果的な活用方を検討していく。 ・国公立大学および他大学受験に対応した学習内容の充実と、教員の指導力向上が求められている。その実現に向け、カリキュラムの見直しを行い、体系的な学習体制の構築を進めていきたい。
生徒指導	「挨拶・身だしなみ」を徹底し、落ち着いた学校生活を送る。	・昨年度と比較して評価が0.1ポイント低下したことは重く受け止める必要がある。結果からは、教員と生徒・保護者の間に生徒指導に対する認識の差が見られた。 ・重点目標として取り組んだ挨拶については、廊下等での声かけが以前より増えるなど、一定の改善が見られた。しかしながら、身だしなみの指導については十分な改善に至っておらず、引き続き課題として残っている。 ・身だしなみは学校の印象や生徒募集にも関わる重要な要素であり、教員全体で共通認識を持ち、一貫した指導を行うことが不可欠である。	A (3.1)	・「挨拶」と「身だしなみ」は、良い学校づくりを進める上で欠かすことのできない基本的な要素であり、継続的な改善が求められる。挨拶については、教員から率先して挨拶を行う学校風土を醸成することが重要である。今後は、教員一人一人が模範となる行動をより一層意識する必要がある。 ・身だしなみに関しては、全教員が共通認識を持ち、全校体制で平滑一貫した指導を行うことが不可欠である。 ・生徒の言葉遣いや礼儀についても、指導の必要性が高い課題である。職員室と教室など、場面に応じた言葉遣いや態度(TPO)をわきまえた行動ができる生徒の育成を、今後の指導の柱の一つとしていきたい。
進路指導	生徒が自らの生き方を考え、望ましい将来像を描き、各自の能力や適性、興味、関心に合った進路を考え決定することができる。	・1年生の6月に進路適性診断を実施し、7月および12月には目的別の進路学習会を実施した。あわせて、東海大学の学部調べを行った。 ・進路希望調査については、東海大学志望者を1年次で調査し、現状把握を行った。 ・保護者対象の東海大学の説明会をPTA総会の場で実施することができた。さらに、付属DAYにおいて、2学年の生徒・保護者が東海大学について理解を深める良い機会となった。	A (3.2)	・進路学習会や進路情報の共有について、適切な時期を考慮し、生徒自身が主体的に進路選択と向き合える機会を設定していく。 ・保護者を対象とした進路指導に関する情報提供の機会を計画に設けていく。 ・生徒とともに教員間で進路指導に関する情報を共有し、学年部会や学年集会等を通して、より確実な進路指導が行える体制を整えていく。
特別活動	生徒が主体となって動き、より良い学校を目指していく。	・学校行事については、生徒が主体となって取り組むことができた。特に建学祭では、建学祭実行委員会が中心となり、企画から運営までを生徒主体で実施することができた。 ・委員会活動においては、積極的に活動している委員会とそうでない委員会との間に差が見られる。今後は、委員会全体の活性化に向けた意識改革が必要である。	A (3.1)	・学校行事については、生徒主体での企画・運営を一層推進するため、生徒の意見を幅広く集約し、反映していきたい。 ・校外でのボランティア活動については、生徒会など一部の生徒に限らず、より多くの生徒が参加できる機会の創出を目指したい。
情報化推進	デジタル化を推進し、授業でのICT活用や地域への広報活動を行う。	・学校全体としてICT活用が一定程度定着していることが伺える。特に、授業の場面でICTの効果を実感している結果と考えられる。 ・3月に生成AIに関する教員研修を実施したことは、今後の授業改善や業務効率化に向けた重要な一歩である。 ・Instagramのフォロワー数や中学生向け学校説明会の参加者が大幅に増えたことから、情報発信が一定の成果を上げている。	A (3.2)	・ICTを「使っている段階」から「学習効果を高める段階」へと発展させることが求められる。生成AIを授業で活用する研修を継続し、授業改善につなげていく必要がある。 ・広報活動については、InstagramなどSNSの強みを生かしつつ、ホームページとの連携を強化し、情報が探しやすく、分かりやすく伝わるのが重要である。情報発信の目的を明確化し、デジタル媒体を戦略的に活用することで、教育活動や魅力をより効果的に発信していきたい。